

現世菩薩

次の日、安珍は、清重達に引き止められるまま、真砂の郷で過ごした。

朝は、清姫やハツを手伝って、滝尻王子の宿坊に泊まる旅人達に、食事を配り・・・それから、滝尻王子の前の流れで、水行をした。

滝尻で水浴する事は、右河は観音を念じて浴す、左河は薬師を念じて沐す。

・・・と言われている。

右の川、岩田川は観音菩薩の不陀落浄土から落ちて来る水であり、左の川、石船川は薬師如来の浄瑠璃浄土から落ちて来る水であると思念して、水浴をしなさいという意味だ。

「世尊妙相具 我今重問彼・・・仏子何因縁 名為觀世音」

安珍は、水浴をし、黙想しながら、観音経を唱える。

「具足妙相尊 偈答無尽意 汝聽觀音行 善応諸方所・・・」

安珍は、ふんどし一つの裸だ。

夏だといっても、水は、身が切れるように冷たい。

「仮使興害意 推落大火坑・・・念彼觀音力 火坑變成池」

「わくひようるこかい りゆうごしよきなん・・・」

隣で小さな声がした・・・。

安珍が薄目を開けると、隣で、清姫が、安珍と同じように手を組み、眼をつぶって、観音経を唱えている。

「ねんびかんのんりき はろうふのうもつ・・・」

いつも唱えているのだろうか・・・柔らかな確かな口調だ・・・。

「惑在須弥峯」「わくぎいしゆみぶ」「為人所推堕」「いにんしよすいだ」

「念彼觀音力」「ねんびかんのんりき」「火坑變成池」「かきようへんじようち」・・・

いつのまにか、お経が合唱になっている・・・。

冷たい水の中なのに、安珍は、ウキウキしている。心の中が、フワフワと暖かくなっているのを感じている。

安珍は、左の石船川に身体を移した。

同じく、水の中に浸かって、今度は、薬師如来本願経を唱える・・・。

「・・・彼仏土、一向清浄無有女人、亦無恶趣及苦音声。瑠璃為地、金繩界道、城闕宮閣軒窓羅網、皆七宝成。亦如西方極